

# 京都

2023 autumn  
No.43



ARCHITECTS

いのちと生活を支える環境デザイン

株式会社 内藤建築事務所

# 京都

2023年autumn号 VOL.43 令和5年10月15日発行

## 目次

受賞報告 『DOCOMOMO 280選』

鹿児島県産業会館

実績紹介 岐阜健康管理センター ……(岐阜県)

岡波総合病院 ……(三重県)

京の路地裏探訪 時代祭「清少納言と紫式部」

表紙の写真 紫式部邸宅址「廬山寺」

竣工日より(令和5年6月～8月竣工)

令和5年8月末現在

所在地	施設名称	構造・規模	延床面積 (㎡)	工期 (令和 年月)
東京都	青梅市立総合病院	増築 S(免震)-8/1	32,290	3. 1～ 5. 7 (外構・既存改修 令和6年7月)
山形県	アメニティセンター	新築 柱RC+梁S-6	3,726	3. 6～ 5. 7
山形県	三友堂病院	新築 柱RC+梁S(免震)-8/1	15,388	3. 6～ 5. 7 (外構 令和5年10月)
山形県	米沢市立病院	新築 柱RC+梁S(免震)-8/1	23,965	3. 6～ 5. 7 (外構・旧棟解体 令和6年11月)
徳島県	美馬市学校給食センター	新築 S-1	1,653	4.11～ 5. 7
京都府	京都市立芸術大学(音楽ホール、展示場、大学、事務所)	新築 SRC(免震)-7/1	46,496 (監理業務)	3. 2～ 5. 8
京都府	南丹市役所 中央庁舎	増築 S-2	2,069	3. 9～ 5. 8
大阪府	介護老人保健施設 松原徳洲苑	新築 S-5	7,278	4. 6～ 5. 8
京都府	医療法人三幸会 北山病院みなみ棟	増改修 S-2	577 (増築面積)	4. 9～ 5. 8



ふたばさんの豆餅

近代建築の保存や調査をしている一般社団法人「ドコモモ・ジャパン」による、国内の優れた近代建築を対象とする「日本におけるモダン・ムーブメントの建築280選」として「鹿児島県産業会館」が選ばれました。本施設は日本の近現代建築史を語るうえで重要なマスターピースになると評価されています。

## 『DOCOMOMO280選』鹿児島県産業会館



写真:西日本統括部長 菅 忠昭  
南九州事務所所長 平田健一

今回「ドコモモ・ジャパン280選」に選定された「鹿児島県産業会館」は1967年(昭和42年)に完成しています。当時のことをわかる方は、社内には残っていませんが、先輩方が残されてきた実績がこのように改めて評価されたことは、後を受け継ぐ私たちにとっても嬉しい事だと思います。

1967年(昭和42年)9・10月号の季刊誌「京都」によると、建物は延べ床面積6,743㎡、地下1階、地上7階、鉄筋コンクリート造であり、2階には387席のホールがあります。ホールの内装は天然木で作られ、バイオリン等の弦楽器と同じような音の響き方をするそうです。当時の写真を見ると、緞帳には桜島を望む鹿児島市内の風景が使われています。

ドコモモ・ジャパンの鯉坂副会長は、元鹿児島大学工学部の教授であり「鹿児島県産業会館」についても研究対象として取り上げて頂き、「機能性とデザイン性を兼ね備えた1960年代の鹿児島の代表的な建築だ」と高く評価して頂いています。また、外装には国立西洋美術館と同様のPCパネルが使われているようで、先述したホールを支えるための十字型の柱と梁による組み合わせの構造形式は、当時のモダニズム建築時代でも特徴的なデザインだと思います。

以前、鯉坂副会長とお話したときに「その時代にしかできなかったものを大切な記憶として残していくことも豊かなまちづくりにつながる」とおっしゃっていましたが、その言葉を大切に、これから次の時代に繋がる新しいまちづくりを提案していけたらと思います。

九州事務所 岳川裕介 福田紘史

### 季刊誌「京都」掲載時の資料(1967年9・10月号)



## 水平ラインに伸びやかな 健康のシンボル

◆ 建築概要

所在地：岐阜県美濃加茂市西町  
 建築主：一般財団法人岐阜健康管理センター  
 敷地面積：10,881㎡  
 延床面積：3,915㎡  
 構造規模：S造3F  
 竣工：令和4年12月



南東面外観

岐阜健康管理センター（美濃加茂本部）は、60周年をむかえるにあたり巡回健診機能を備えたクリニック併設型の健診センターとして移転新築にて計画されました。美濃加茂は古くから中山道の宿場町で栄えた交通の要所で利便性が良く、この立地を活かした循環型の健康管理センターは5つのキーワードから構成された「みのかものときま（時間）に浸る」の実現をコンセプトとしました。

「5つのキーワード」

- ①「人フォーカスのサービス（おもてなし）」
- ②「新しい生活スタイルへの対応」
- ③「SDGs/ESGへの取組み」
- ④「健診のDX化」
- ⑤「地域文化の反映」

美濃加茂の雄大な山々の風景に溶け込む水平に伸びやかな健康のシンボルをイメージした大庇が全方位にまわる特徴的な外観デザインと、軒裏の木目がやさしく利用者を出迎えます。夜間は巡回健診スタッフの目印となり安心して帰還できるよう庇先端のLED照明が建物全体を照らし、光のオブジェへと変化させるなど照明計画にも配慮しました。内部はエントランスホール（WELLNESS PLAZA）の3層吹抜けにガラス張りのシースルーエレベーターを配し、内装材は木と岐阜県内の素材による地域文化を反映したしつらえとしました。正面には伝統的な魅力をもつ美濃和紙を取り入れた「行燈あかりの美濃手すき和紙アートウォール」を計画し、光溢れたホスピタリティあるインテリアとしました。

またタブレットを活用した健診のDX化への対応として回廊型の機能的な間取りとする他、ハイサイドライトからの自然光の活用、大庇による日射抑制などの環境配慮、発熱外来や1フロアに集約したオフィス空間などニューノーマルにも対応し、地域の皆様に永きにわたり親しまれる「新・岐阜健康管理センター」を目指しました。



WELLNESS PLAZA（1階）



アートウォール



南東外観夜景



健診 受付・待合（2階）



ドック 受付・待合（1階）



## 伊賀地域の医療と健康を見守る 「おかなみさん」

◆ 建築概要  
 所在地：三重県伊賀市上之庄  
 建築主：社会医療法人畿内会  
 敷地面積：67,186㎡  
 延床面積：35,006㎡  
 構造規模：S造（一部SRC造）（免震）9F  
 病床数：335床  
 定員数：100名（老健）  
 竣工：令和4年11月



南西面外観

三重県伊賀地域の基幹病院として救急医療を支えてきた岡波総合病院は、旧病院の老朽化・狭隘化の解消、更なる高度医療の提供を目的に、創立100周年プロジェクトとして移転新築されました。敷地は名阪国道から近く、伊賀地域を臨む高台に位置し、新病院では大規模災害時の安定した医療提供や、更なる救急医療の強化を図っています。外観は長年にわたり地域住民に「おかなみさん」の愛称で親しまれてきた信頼と品格が感じられるデザインとしました。

- （1階） エントランスから総合受付・エレベーターが一望に視認できる分かりやすい空間構成とし、ホスピタルストリートに沿って外来ブロック受付を配置するほか、各ブロックカラーと模様のデザイン性により外来・検査部門への誘導性を高める計画としました。
- （2階） 化学療法、透析センター、健診センター、管理部門を配置し、特に長時間の治療が必要となる透析センターは、風を感じない空調設備の採用など快適な治療空間としました。
- （3～7階） 病棟はスタッフステーション周囲に病室を配置し、患者さんの見守りが容易となり看護動線も短いナーシングホール型病棟を採用しました。また、伊賀市街や青山高原を一望できるデイルームを病棟中央部に設け、患者さん、ご家族の心を癒す空間としています。その他、「波」をモチーフにしたアートやサイン、「伊賀組紐」をイメージした病室レリーフを設置し、機能だけでなく地域性とホスピタリティを感じられる計画としました。
- （8階） 介護老人保健施設（定員100名）を配置し、将来的な病床への転換を見据えた設備計画のほか、多床室（4名）のベッド間を家具で仕切ることで、個室感を高める計画などプライバシーに配慮しました。



キャノピー



エントランスホール（1階）



待合（2階）



人工透析室（2階）



スタッフステーション（6階）

# 清少納言 と 紫式部



2022年10月22日の「時代祭」にて

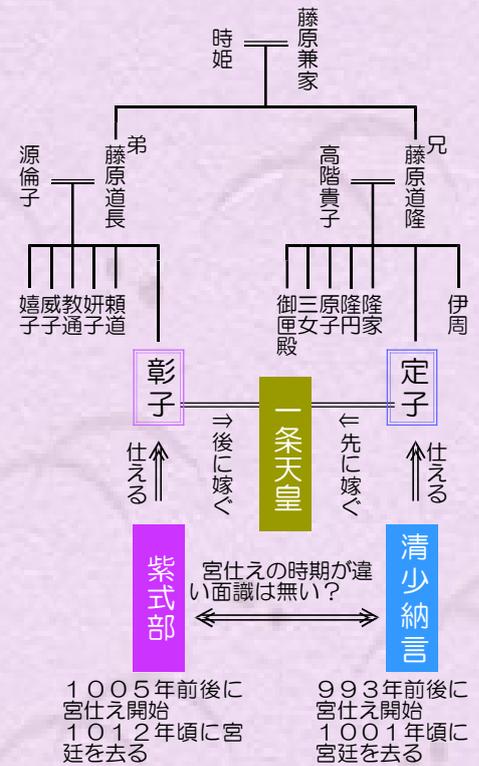
2024年のNHK大河ドラマは紫式部を題材とした「光る君へ」と発表されました。時代祭では仲良く乗られているのですが、よく清少納言と紫式部はライバル関係だったと言われています。

諸説ありますが、宮仕えの主君が藤原定子（ていし）と藤原彰子（しょうし）と異なり、同時に宮廷にいた期間もありません。定子と彰子は「いとこ」で、ともに一条天皇に嫁いでいますが、二人には直接の接点はありません。ではなぜ？

定子が亡くなり、清少納言は宮廷を去り、その後に紫式部は宮仕えを始め彰子に仕えます。でも宮廷では多くの貴族たちが定子と清少納言の思い出を懐かしんでいました。二人は常に比較される立場にありました。さらに紫式部がライバル視していたのは、清少納言の「枕草子」です。枕草子には清少納言が貴族たちと明るく振る舞う様子が描かれています。人付き合いの苦手な紫式部は、そんな清少納言を好きになれなかったのでしょうか。

一方的にライバル視していた紫式部は自身の日記「紫式部日記」に、清少納言に対しての凄まじい酷評を書かれているようです。

でも、まずは大河ドラマがスタートする前に「源氏物語」を読み終えることにします。



<p>1005年前後に 宮仕え開始 1012年頃に宮 廷を去る</p>	<p>宮仕えの時期が違 い面識は無い？</p>	<p>993年前後に 宮仕え開始 1001年頃に 宮廷を去る</p>
---	-----------------------------	--



宇治橋の紫式部像



京都御所の紫宸殿



大和和紀さんの「あさきゆめみし」

紫式部邸宅址『廬山寺・源氏庭』



天慶元年(九三八)、比叡山第十八世座主元三大師良源(慈恵大師)が京都の北、船岡山南麓に開いた與願金剛院に始まります。寛元三年(一二四五)住心房覚瑜上人が出雲路に廬山寺を開き、南北朝時代にこの二カ寺が統合され廬山天台講寺と改められました。

その後、応仁の乱、信長の比叡山焼き打ちに遭遇し、天正元年(一五七三)現在地・紫式部邸宅址に移転しました。

この地は紫式部の曾祖父の中納言藤原兼輔から伯父の為頼、父の為時へと伝えられた広い邸宅でした。鴨川の西側の堤防の西に接していたため「堤邸」と呼ばれ、それに因んで兼輔は「堤中納言」の名で知られていました。紫式部は百年ほど前に兼輔が建てた「旧い家(ふるいいえ)」で一生の大部分を過ごしたといわれ、この邸宅で藤原宣孝との結婚生活を送り、一人娘の賢子(かたこ)を育て、源氏物語を執筆しました。

「源氏庭」は平安朝の庭園を表現したもので、白砂と苔の庭です。源氏物語に出てくる朝顔の花は今の桔梗のことで、紫式部に因み、紫の桔梗が6月末から9月初め頃まで静かに花開きます。



■御土居

廬山寺の境内には御土居の遺構があります。御土居は、天下統一を成し遂げた豊臣秀吉が応仁の乱後の荒れ果てた京都の復興のため、外敵に備える防塁と鴨川の氾濫に備えた堤防で囲んだ土塁です。

南北8.5km、東西3.5km、全長22.5kmに及びます。土塁の内側を洛中、外側を洛外と呼び、京都と諸国を結ぶ街道のところには、御土居を横切る「口」を設け、洛外との出入り口としました。現在でも鞍馬口、丹波口、粟田口、荒神口などの地名が残っています。

